令和4年度第2回 支えあいのまちづくり協議体（月島地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（月島地域）」の令和４年度第2回目を、月島地域で開催しました。

１ 実施日

令和4年9月9日（金）14:00～15:30

２ 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター １０名

３ 内容

・各メンバー近況報告
・第2層協議体情報交換会の報告
・第１層協議体の報告
・意見交換：「集まれ!スマサポまつり」の今後の実施について、広報物の作成について

４ 出席者近況報告

前回の協議体から、地域の様子や高齢者の状況について、各々から報告を行った。

- ✓ 民生委員によるひとり暮らし高齢者の調査が８月から始まった。今年度初めて対象となった方の自宅を訪問している。
- ✓ 介護保険事業所ではコロナの陽性者が出ても、事業を止めずに運営する流れになってきている。
- ✓ 病院では感染者が減少しているものの、面会はまだできず、テレビ電話での対応となっている。
- ✓ コロナで亡くなる方が増えている。コロナは2類感染症のため、火葬場や火葬時間、霊安室が限定されており、費用も通常の倍以上かかってしまうケースがある。家族が困惑され、区とも連携をとりながら進めている状態である。
- ✓ 月１回の高齢者サロンにて食事を再開したが、黙食で食事をしている。コロナ禍で身体が弱ってしまった高齢者が多いと感じている。
- ✓ 高齢者向けの雑誌にて、スマホでやりたいことは何か？というアンケートに対し、結果の１位はオンライン予約だった。病院や博物館、美術館などオンライン予約のため、必要にかられているのかもしれない。

５ 第2層協議体情報交換会の報告

６月 22 日（水）に実施した第２層協議体情報交換会について報告。京橋・日本橋・月島地域それぞれの取り組みや話し合いのテーマ等を共有したうえで、意見交換を行った。意見交換では、「顔の見える関係づくりが大切である」「他地域の社会資源や活動に参加できるよう、中央区全体のマップのようなものがあると良い」「担い手が情報の媒体である」といった意見が出たことを報告した。

６ 第１層協議体の報告

７月 27 日（水）に実施した第 １ 層協議体について報告。第2層協議体情報交換会の意見をもとに、「中央区内で地域活動を担われている方のネットワーク化」について意見交換を行った。日頃から顔が見える関係性を作っておくことで高齢者の参加につながることや、担い手や活動者がどのような活動をしているかを情報発信し、活動者のネットワーク化に結び付けるといった意見が出たことを報告した。

7 意見交換

（1）「集まれ!スマサポまつり」の今後の実施について

前回の協議を踏まえて、他地区でのスマサポまつりの実施について検討した。

・実施にあたっては、晴海ビュータワーでの実施時と同様にアンケートを行い、回答結果に基づき、スマサポまつりの実施内容を変更する。

案① 勝どき敬老館の利用者にアンケートを実施し、勝どきデイルームまたは敬老館にてスマサポまつりを開催する。

案② スマサポまつり後に、某地区のマンションから開催希望の声が上がったことから、公募してみる。

➡ 今回は案①とし、敬老館に相談してみる。今年度内の実施を目指し、スケジュール等については、リーダー・サブリーダーと相談して決定し、メンバーに報告する。
案②については、協議体で作成する広報紙にて公募記事を掲載してみる。

（2）広報紙の発行について

前回の協議体にて、創刊号の記事内容を決め、広報紙のタイトルについては次回に持ち越しとなった。今回は、タイトルだけでなく発行にあたっての詳細について協議した。

・タイトル　となりぐみ
・創刊号の内容　メンバー紹介
　　メンバーの顔写真イラスト+名前・肩書き
　　支えあいのまちづくり協議体とは何か
・発行頻度　半年に1回
・配布先　町会、公共施設、福祉施設等、サロンなどの利用者、民生委員協議会など
　→次回再度検討する。

8 次回の予定

次回の協議体は 11 月に開催予定。第2回スマサポまつりの実施と継続するための仕組みづくりについて、広報紙の内容について意見交換を実施する。

【当日写真】

